

継続した支援が必要

本部 渡邊 智史

7月14日は、20名（現地及び全日本8名、東京1名、愛知1名、兵庫2名、奈良3名、島根4名、宮崎1名）の参加で、小屋浦地域に支援に伺いました。広島民医連もまだ入っていない地域とのことで、状況が全く分からない状況でのこと。

小屋浦小学校に設置された現地のセンターから川の上流側に向かい、サテライトに到着したのが11時20分。昼食休憩を取り12時から支援行動を開始しました。町内会長さんの要請で土石流被害を受けた個人宅の泥出し、ごみ出しの作業を行いました。「10分作業し、10分休憩」で作業をしても猛暑で体力を奪われて行きました。泥が20cmほどある部屋から泥を土のうに詰め、汚染されたゴミを屋外に出すという作業を続け、4人チームが2組で1部屋片づけるのがやっととの状況で、まだまだ継続した人の手が必要だと思われました。



砂、泥や流された木や石などで埋もれた現地(1m強が埋没)



保育園のグラウンドも施設も土砂に埋もれていた